

「Cliff Edge Project うぶすなの水文学リサーチプログラム中間報告」



(12月29日城山から狩野川を観察)

丸木舟制作と川の想像

私は今回のクリフエッジプロジェクトで天城山から始まり修繕寺、沼津を通って駿河湾に抜ける狩野川をテーマにした作品を作りたいと思っています。そもそも川というテーマは以前から興味のある対象でもあり、2018年に制作した作品において、イタリアのポー川と

いうイタリア北部を流れる約650キロの大河を1ヶ月半かけてアルプスの源流からアドリア海まで移動しながら川沿いの文化や歴史、人の営みや川にまつわる問題などに触れながら川沿いを写真を撮りながら取材し移動した経験がありました。そういった流れから以前から日本の川を見てみたいという思いがありました。私のアトリエが戸田という伊豆半島の西側に位置する戸田という漁師町にあり、頻繁に中伊豆の様々な川へ行き、川下りやカヌーをして慣れ親しんでいた経緯や、さらに友人から借りた茂在虎男著の「古代日本の航海術」という本の中で、カヌーという言葉の語源についての考察がありました。そこには天城周辺にある軽野や狩野川という地名との関係性について触れられ、古代人々は船を造るため狩野川周辺の木材を使用し軽野神社近くの船原という場所にある造船所で船を多く造っていたのではないかということや、その造船した船を駿河湾を通り多くの場所へと流通させていたのではないかといった考察もあり、狩野川やその周辺の自然環境と船（カヌー）との関わりについて非常に興味持っていました。そういったことから狩野川をテーマに川の歴史や現代における川のあり方についてプロジェクトを進めていきたと思っています。

プロジェクトを進行していく上で行うことは、茂在氏の考察に基づき狩野川周辺の木材を実際に切り丸木舟を造るとこ、そしてそれを狩野川へ浮かべ海まで渡ってみる。

そのプロセスにおいて重要なのは自らの手を使って一から実践してみるということと、またその工程を多くの人と共有しながら川を考え、川の成り立ちや歴史といった様々なことを想像するということです。

【今後制作する上で行っていくこと】

- ・天城周辺の大木を切りだし、木をくりぬき丸木舟を制作、それを狩野川へ運び海に向かって下る
- ・実際に木を切る作業やくり抜く作業においては天城周辺に住む現地の方々や興味のある多くの方々と共に経験を共有する
- ・その行為における一連のプロセスにフォーカスすることでその土地や川を考える
- ・制作した丸木舟を作品発表の空間の中で展示する

（補足）

初期の方のクリフエッジプロジェクトでのオンラインでのミーティングで、メンバーである松本さんがお話してくださった会話の中で、川が人間のものになりすぎちゃっているという言葉が印象的でもあった。私自身イタリアの大河を川に沿って移動しながら色々な方々と話してきた中でも多くの方が同じようなことを言っていたことを思い出した。今回のプロジェクトを遂行する中で川が我々とどのように結びついているのかということも多くの人と共有して考え時間になればと思っている。

【現在プロジェクトの為に動いていること】

・現在河津の山を所有されている黒田さんという方の山に入り直径90cmの大木を下見させていただきました。

そこで大木を切り出すことで検討中

・木を切り出し運び出すという作業において予算内で進めていくことが少々難しいことも考えられるので、工程の中で必要なもの、人員な

ど補助金なども含めリストアップしている

・三月中旬から後半で山に入り木の切り出し予定

・木を数ヶ月乾かすつようがあるので、今回チームとして動いてもらうMATANE村の斎藤さん宅に置かせていただく

・6～7月に乾燥がある程度終わってれば丸木舟を制作 同時に櫂（オール）なども残った木を使って制作

・11月の展示に向けた撮影なども夏から秋にかけて取り掛かる



(1月7日河津の山での木材の選定)

